

残念なことに現状で、新型コロナウイルス感染は収束の見込みが立っていません。新潟県は人口当たりの新規患者数は現時点で全国47都道府県中41番目と他の都道府県と比べればまだましな状況ですが、医療はひっ迫し、医療崩壊の可能性がないわけではありません。

日本における新型コロナによる の死亡者数の推移

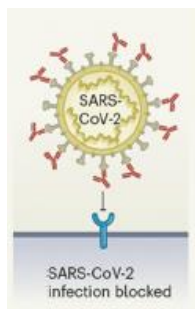


ようやく、新潟市でも感染収束のカギとなるワクチン接種が再開されました。まだ接種していない方は、ぜひ接種を受けていただきたいと思います。当院もワクチン接種は行っていますが、県から供給されるワクチンは、週に48名分と非常に少ないのが現状で、集団接種を主に考えていただくしかありません（予約枠が空いていれば当院で接種可能です。なお当院も集団接種会場には医師・看護師の派遣を行っています）。

新型コロナウイルス感染症の治療に関しては、かなり確立してきていますが、100%というわけにいかず、やはり感染しないよう予防対策を続けるようにしてください。新潟県も新型コロナウイルス感染症患者さんに用意した病床が50%くらいまで埋まってきており、無症状の方や症状が軽度の方は自宅療養となっています。全国では何と自宅療養者が12万人くらいいらっしゃるそうです。新潟県でもホテル療養・自宅療養の方が800人くらいになっているようで

す。現在、新型コロナ感染症の致死率は1%くらいですが、マスコミで報じられているように、自宅待機で軽症と診断されている方の中に急死する人もいます。

抗体カクテル療法



2種類のウイルス中和抗体
カシリビマブ、イムデビマブは、
それぞれがウイルスのスパイクタンパクに
結合し、ヒトの細胞との結合、
ひいては感染の成立を阻止する。

スパイクタンパクとの結合に際し、
カシリビマブとイムデビマブは競合しない。

最近注目されている治療法に、抗体カクテル療法があります。これは2種類の中和抗体を点滴で投与することで、新型コロナウイルスの感染を抑えるもので、前アメリカ大統領トランプ氏が使用したことでも知られています。重症化が1/3に抑えられるといわれています。ただこの薬は発症後10日以内で、無症状および軽症の方でかつ50歳以上又は持病がある方に使用が制限され魔法のような薬ではありません。



東京2020パラリンピックは8月24日から9月5日まで開催されています。幸いにも新型コロナウイルス感染の拡大には結びついてはいないようで、ほっとしています。

豊栄病院 病院長 宮島 透 記